

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

チャレンジ精神を涵養して生徒の無限の可能性 (No Limit) を引き出し、自己肯定感をはぐくむことにより、

本校に入学した生徒の全員が学業に部活動に学校行事にがんばって卒業する学校、生徒それぞれが自己実現を果たし希望の進路に向かって歩めるような学校をめざす。そのために、学力向上にしっかりと取り組む。また、個に応じた教育を推進するとともに、一層きめ細かな指導を行い、基礎学力を確実に身につける教育を実施し、卒業時には生徒全員が自己実現できる夢と希望に溢れる学校になることをめざす。

1. 生徒の笑顔が溢れる学校
2. 保護者や地域から信頼され地域に貢献し愛される学校
3. 生徒の夢と希望を育み自己実現がかなう学校

## 2 中期的目標

1. チャレンジ精神の涵養＝学校経営計画（教育ビジョン）の浸透を図り教職員の認知度を 45%から 75%まで上げる
  - (1) 生徒の無限の可能性 (No Limit) を引き出す教育活動＝社会でリーダーとして活躍する人材を育成する
    - ア. 国際交流行事の継続・発展により海外や英語を活用した仕事につく人材を育成すると共にグローバルな視点をもたせる
      - ・3月のグアムのGW 高校への生徒派遣と6月のグアムのGW 高校からの生徒受け入れ
      - ・グアムへの修学旅行の継続・推進
    - イ. 英語検定・漢字検定の全員受検
      - ・2年における英語検定の全員受検を好機とし、指導方法を開発し、卒業までに2級・準2級の合格者を必ず出す
      - ・1年における漢字検定の全員受検を好機とし、指導方法を開発し、卒業までに2級・準2級の合格者を必ず出す
    - ウ. 大学進学対策室による大学受験指導の充実＝40名以上の大学進学者を出す
      - ・教職員及び生徒に対して大学進学の魅力を広報するとともに個別支援の体制を整える＝関西大学・近畿大学などの合格者を毎年出す
      - ・看護専門学校受験者の個別支援を行い、毎年合格者を複数名出す
  - (2) 入学した生徒が全員がんばって卒業できるように自己肯定感をはぐくむ＝95%以上の卒業をめざす
    - ア. 生徒を大切に実践＝学校へ行くのが楽しいという生徒を80%以上にする
      - ・ベンチ・観葉植物の設置などによる環境整備
      - ・生徒の自主性を育てるように各種行事を見直す
      - ・生徒の自尊心をはぐくむ「ほめて育てる」「励まして育てる」指導への教職員の意識改革をすすめる
    - イ. 遅刻防止に対する積極的指導により生徒の自尊心をはぐくむ＝朝の挨拶運動の推進などにより遅刻数を毎年減らす
    - ウ. 部活動の活性化＝加入率50%をめざす
      - ・部活動による指導により、生徒の社会性・自主性を涵養する
      - ・部活動加入率をあげるにより、学校に対する帰属意識を醸成する
    - エ. 生徒の意識改革を推進する
      - ・外部人材の積極的活用による生徒の気付きの推進を図る 社会保険労務士・コモンセンスペアレンティングの授業等
      - ・HR、総合的な学習、講演会の充実＝性モラル教育・情報モラル教育・薬物乱用防止教室・交通安全教室・人権講演会 等の積極的実施
    - オ. 地域貢献による自尊感情の育成
      - ・地域の老人介護施設、保育所、幼稚園、商店街に対するボランティア活動の推進
      - ・ホテルの人工飼育をおこない、地域住民が楽しみにしているホテル鑑賞会を生徒と共に実施して期待に応えると共に生徒の自尊心をはぐくむ
  - (3) 広報活動の強化
    - ア. 授業見学、部活動の実績発信や見学、出前説明会などによる学校説明会の充実
    - イ. ウェブページの充実・ホテル見学会・近隣施設に対するボランティアなど地域連携による発信力の強化
2. 確かな学力の養成
  - (1) 学びへの意欲を喚起する＝「将来の進路や生き方などについて、学んだり考えたるする機会がよくある」生徒の肯定的回答を80%以上にする
    - ア. 進路説明会・進路行事の充実
    - イ. 一人ひとりの教員が日頃からの学ぶ意義を熱く訴える（最重要であることを認識する）
  - (2) 基礎学力の養成＝就職一次合格者を70%以上を維持する・大学進学者40名以上(再提示)
    - ア. モジュール授業の実施による基礎学力の涵養
      - ・朝10分間のモジュール授業を取り入れることによる基礎学力の養成＝10分間テスト等を導入する
      - ・各教科の中でのモジュール授業の開発
    - イ. 教科「教養」の充実＝計算力、漢字力、基礎教養がつく教材の研究開発
    - ウ. 看護系をめざせる国語、数学の基礎学力養成システムの開発（カリキュラム・補習等）＝看護専門学校への合格者を毎年複数名出す（再提示）
  - (3) わかる授業の推進＝「授業がわかりやく工夫されている」という生徒を80%以上にする
    - ア. 募集クラス＋1クラス展開による少人数ホームルームによるきめ細かい生徒指導・学習指導
    - イ. 電子黒板などICTを積極的に活用した授業の推進＝80%以上の活用を目標とする
      - ・活用研修の推進
      - ・教材コンテンツの蓄積と共有化をすすめる
    - ウ. 研究授業を充実させる、また、授業見学期間を設けて相互見学を推進する＝参加延べ数を指標とする
    - エ. カリキュラムマネジメントを徹底し、生徒の進路実現に資するように習熟度授業や設置科目について毎年見直し充実させる
    - オ. 教科における指導方針や指導方法などを常に話し合いわかる授業の推進を図る
  - (4) 専門コースの充実
    - ア. 環境科学コース……ホテルの人工飼育、農業体験等との関連づけにより自然環境を守る意識をもつ人材を育成する  
看護系専門学校・大学に対応するカリキュラムを開発する＝毎年複数の合格者をだす（再提示）
    - イ. 国際文化コース……日本の伝統文化尊重する姿勢を涵養すると共に大学進学希望者に対応するカリキュラムを開発する  
＝コース外の生徒とあわせて40名以上の4年制大学進学者をだす（再提示）
3. 進路の実現
  - (1) キャリア教育の推進＝年度末進路未決定者を0にする
    - ア. 進路指導部が主導した3年間を見通したキャリア教育を推進する
    - イ. インターンシップの充実・発展
    - ウ. キャリアコンサルタントや進路ミューシカル等の外部人材の積極的な導入・活用
    - エ. 教育産業と連携して学力生活実態調査、基礎学力調査を実施し一人ひとりのきめ細かいキャリア指導をおこなう
  - (2) 就職指導の充実＝年度末100%の合格をめざす
    - ア. 1年よりの計画的な指導をおこなう
    - イ. 就職にむけた基礎学力の養成（再提示）
    - ウ. 面接指導などの一層の充実
  - (3) 進学指導の充実＝大学合格者は40名以上（内、近畿大学・関西大学合格者を毎年出す）（再提示）
    - ア. 確かな学力の養成（再提示）
    - イ. 大学進学対策室による大学・看護専門学校受験指導の充実（再提示）
    - ウ. 奨学金制度の活用支援など資金計画指導の充実
4. 安心安全の学校づくり
  - (1) 生徒支援の充実＝95%以上の卒業をめざす（再提示）
    - ア. 教育相談システムを充実させ、外部機関との連携を密にして生徒の状況を把握し、課題を共有する
    - イ. 学校生活支援チームを充実させ、教員間の情報を密にして退学防止へ全校一丸となるように取り組む
    - ウ. スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）などの積極的な活用
  - (2) 危機管理体制の充実＝「いじめにしっかり対応してくれる」（生徒自己診断）を80%以上にする
    - ア. いじめ、体罰、不登校等のすばやい発見と対策について情報を共有し、対応できる体制が機能しているかを常に点検する
    - イ. 大規模地震等の災害にそなえた体制を確立する
5. 学校経営組織の見直し
  - (1) 校長の学校経営計画が浸透する体制の確立＝浸透しているという教職員評価を75%以上にする（再提示）
    - ア. 経営会議（首席以上）、運営委員会（職員会議準備のため）、β運営委員会（課題発見・将来構想）、職員会議を充実させる
    - イ. 校内体制のスクラップアンドビルドを行う
    - ウ. 大学進学対策室（校長直属）を充実させ学校を引っ張る補助エンジンとする
    - エ. ミドルリーダー・スクールリーダーの育成
    - オ. 学校経営計画及び安心安全の学校づくりに沿った適正な予算執行
  - (2) ICTの活用
    - ア. 成績処理など校務システム活用の充実
    - イ. 校内の情報伝達システムの開発
    - ウ. コンプライアンスの意識の涵養

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. チャレンジ精神の涵養	(1)生徒の無限の可能性を引き出す教育活動 ア. 国際交流の継続・発展 ウ. 大学進学対策室による大学受験指導の充実 (2)入学した生徒が全員がんばって卒業する学校 ア. 生徒を大切にする実践 イ. 遅刻防止に対する積極的な指導 エ. 生徒の意識改革 (3)広報活動の強化	(1)ア. 本校及びGW高校の担当者が総入れ替えするなかでの6月にグアムから生徒をホームステイで受け入れ、3月に本校生をホームステイで受け入れ、相互交流が継続する。 ウ. 大学進学対策室が実際に稼働し、 ①補習体制を整備すること、 ②生徒と教職員のチャレンジ精神の涵養により大学合格30名を定着させること、 ③近畿大学又は関西大学の合格者を出すよう支援すること、 ④看護専門学校に合格者を複数名出すこと、を実現する。 (2)ア. 規範意識の涵養にかたよることなく、「ほめて育てる」「励まして育てる」スキルを磨く。その為にコモンセンスペアレンティング研修・SSWによる研修などを行う。 また、初任者に対する校内研修を充実させる。 イ. 今まで実施していなかった朝の挨拶運動を実施して定着させる。または、2-(2)-アと関連付けた朝学を推進する。 エ. 性モラル教育、情報モラル教育を意識改革の重要課題と位置付けて3年間の指導計画を立て、実施する。 (3)中学校訪問、説明会の充実	(1)ア. 満足度をもって相互訪問が実施できたか。アンケートにより80%以上とする。 ウ. 目標を達成できるかどうか。 ①10名以上の補習が3つの学年合計でできたか。 ②30名の合格者を出せたか。 ③近大又は関大の合格者をだせたか。 ④看護専門学校の合格者を複数名出したかどうか。 (2)ア. エによって26年度の懲戒件数27件を減らす。転退学者については26年度の転学19退学24留年14の現状を少なくとも維持する。 イ. 遅刻者数15941件を20%減とする。 (3)志願倍率1.1倍を確保できたか。	
2. 確かな学力の養成	(1)学びへの意欲を喚起する (2)基礎学力の養成 ア. モジュール授業の実施による基礎学力の涵養 (3)わかる授業の推進 ア. 募集クラス+1クラス展開による少人数ホームルーム イ. 電子黒板などICTを活用した授業の推進 ウ. 研究授業を充実させる	(1)進路説明会を充実させる (2)ア. 本格実施か1-(2)-イにある遅刻指導の一環として朝のSHRの時間を自学自習の時間とすることを模索する。また、基礎学力をつけるため、計算、漢字、英単語等のミニ教材を整備し、10分程度の時間を利用して反復練習させるモジュール授業導入を各教科に推奨する。 (3)ア. 平成28年度実施を実現させるために、副担任を減らすなど障がいを取り除く。 イ. 電子黒板 (ICT) 活用研修を初任者及び異動者対象の複数回実施する。 ウ. 春と秋に授業見学期間を設けるなど、相互に授業を見学できる枠組みを整え、授業見学が気軽にできるようにする。	(1)「進路や生き方に対して学んだことがある」自己診断指標を70%以上にする。 (2)ア. 左記の実践が出来ていないので基礎学力養成のための具体的な方策を実施できたか。 (3)ア. 平成28年度継続して募集クラス+1展開の少人数ホームルームクラスを実現できたか。 イ. 電子黒板 (ICT) 活用率40%を達成する。 ウ. 「校内で他の教員の授業を見学する機会がある」(自己診断)を62%から80%に上げる。	
3. 進路の実現	(1)キャリア教育の推進 イ. インターンシップの充実・発展 エ. 教育産業との連携 (2)就職指導の充実 (3)進路指導の充実	(1)イ. インターンシップの受け入れ先拡大と単位認定を行う。 エ. 教育産業と連携して学力生活実態調査、基礎学力調査等を実施し一人ひとりのきめ細かいキャリア指導をおこなう体制を整える (2)きめ細かい就職指導を継続発展させる (3)大学進学対策室と進路指導部の連携による補習、進路相談等の充実	(1)イ. 昨年度の受け入れ先3施設・参加数11名よの増加させる。 単位認定を整備できたか。 エ. 導入する体制を整えるか、それに代わる指導体制を構築する。 (2)一次合格率74%を維持する。最終決定率96%を維持する。 (3)大学合格者30名を維持する。近畿大学又は関西大学合格者を1名以上出す。	
4. 学安校心つく全りの	(1)生徒支援の充実 ア. 教育相談の充実 イ. 学校生活支援チームの充実 ウ. SC・SSWの積極的な活用 (2)危機管理体制の充実	(1)ア・イ・ウを有機的に関連づけて、生徒支援の体制を整理し充実させる(複数の委員会・会議を整理統合する) (2)コンプライアンス研修を行い、個人情報の漏えい、管理方法の点検を行う	(1)ア・イ・ウ シンプルで効果的な体制を構築できたかどうか。 (2)コンプライアンス研修の実施したか。情報管理に遺漏はないか。	
5. 学校経営組織の見直し	(1)校長の学校経営計画が浸透する体制の確立 ア. 経営会議等の充実 イ. 校内体制のスクラップアンドビルド ウ. 大学進学対策室の充実 エ. リーダーの育成 (2)ICTの活用	(1)ア. 経営会議、運営委員会、β運営委員会、職員会議によりあるべき学校の姿を検討・発信し、学校経営計画の実現力を強化する。 イ. 校内組織の整理を行いシンプルで効率的な組織再編を行う ウ. 大学対策進学室に若手教員を参加させ、アイデアを引き出させ、人材育成を図る。 エ. 若手を育成し活躍させる仕組みをつくる。 (2)コンプライアンス研修を実施する	(1)ア. 職員会議等が有効に機能している(自己診断)を54%から60%にあげる イ. 複雑な校内組織を整理できたかどうか。 ウ・エ ミドルリーダーの提案・実践により学校経営計画が具体化されたかどうか。 (3)情報漏えい事故を起こさない。	